

# 「保育・教育の質の向上と子どもの発達」



秋田喜代美(東京大学教育学研究科)

2021/2/22 @Children First の子ども行政のあり方勉強会

# 本日の話題提供

1. 保育の質とは
2. 保育の質が子どもの発達にもたらす影響・効果
3. 現在やこれからの幼児教育・保育政策と質



# ① 保育の質とは



## 保育の質は多面的に捉えられる：諸側面（OECD, 2006）

志向性の質：国や自治体を示す方向、法、規制

構造の質：物理的（園舎等）・人的環境（比率、資格等）

教育の概念と実践：国のカリキュラムや教育課程・計画

過程（プロセス）の質：環境・保育者と子どものやりとり

実施運営の質：園運営 計画や実施・評価、研修等

子どもの成果の質：現在、将来の子ども達の資質の発達

「保育の質」=子どもたちが心身ともに満たされ、豊かに  
生きていくことを支える環境や経験（OECD, 2015）

リーダーシップ



近年では「保育の質を超えて」の議論が盛ん

Beyond Quality (Dahrberg, Moss & Pence, 2013), Beyond Regulation (OECD, 2020)

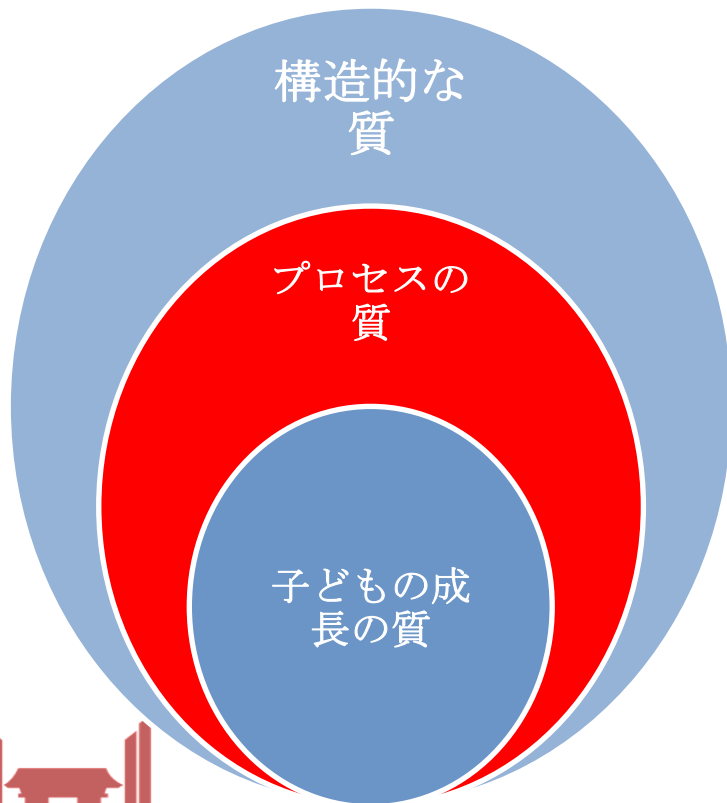
質の確保  
客観的な  
基準の保障

質の向上  
さらなる  
創意工夫  
園独自の取組

サービス  
エクセレンス  
子ども、保護者、保育者  
にとって喜びの感情、  
満足、新たな独自の価値、  
地域の良さ発見

地域による卓越性を生かす

# プロセスにおいても多様な次元の質の検討の必要性が指摘されている



- 子どもの日々の経験を多面的に捉える（**身体的**、**認知的**、**社会的**、**感情的**、**文化的**）
- 保育者と子どもの関わりだけではなく、子ども同士の関わりの重要性
- 子どもと環境との関わり（保育室、遊び場、園庭、本、おもちゃ、地域コミュニティーなど）
- カリキュラムと関わり
- スタッフと親の関わりなどが今後検討が必要であることが指摘されている

OECD,2020

## ② 保育の質が子どもの発達に及ぼす影響 海外の結果、日本の結果



# 海外 幼児教育・保育の質に関するOECDの研究の知見

OECD（経済協力開発機構）：Starting Strong（人生の始まりこそ力強く）  
幼児との関わり：幼児教育・保育の質に関する研究から得られた教訓（抜粋）  
（2018年3月27日発行）

---

子どもの発達と学びに対する質の高い幼児教育・保育（ECEC）の効果は、文献により十分に確立されており、プロセスの質がECECを通じた子どもの発達の最も重要な要素であるとの一般的なコンセンサスが存在する

経済協力開発機構（OECD）の報告書「Starting Strong」とその他の国際的研究により、質の高いECECは、言語の使用やアカデミックスキルの芽生え、早期の識字および計算、社会情緒的スキルなどといった様々な領域の子どもの早期発達とその後の就学後のパフォーマンスにとって有益であることが指摘されている。

質の高いECECが持つメリットはこの他にも、健康的な摂食習慣や身体活動習慣の定着の後押しなど、健康およびウェルビーイングにも及ぶ。質の高いECECサービスは、労働市場への参加、貧困の削減、異なる世代間の社会的移動性および社会的統合の向上など、子どものその後の人生における成果にもつながるというエビデンスが増加している





# 幼児教育・保育の質に関するOECD（経済協力開発機構）の研究

## ○質の高い幼児教育の効果

- ・質の高い幼児教育・保育は、言語の使用やアカデミックスキルの芽生え、早期の識字および計算、**社会情緒的スキル**などといった様々な領域の子供の早期発達とその後の就学後のパフォーマンスにとって**有益**であることが指摘。このほか、健康的な摂食習慣や身体活動習慣の定着の後押し等、健康・ウェルビーイングにも効果が及ぶ。
- ・質の高い幼児教育・保育サービスは、労働市場への参加、貧困の削減、異なる世代間の社会的移動性及び社会的統合の向上など、**子供のその後の人生における成果にもつながるというエビデンスが増加**。

## ○幼保小接続における教育（指導）の継続性の意義

- ・カリキュラムの一貫性や継続的な幼保小接続の取組は、その後の子供たちの学力や社会的成長と関連していると指摘。
- ・幼保小のカリキュラムに一貫性を持たせること、**幼保小の間の教育内容の理解の共有**、**幼保小の指導の連続性が取り組むべき課題**であると指摘。

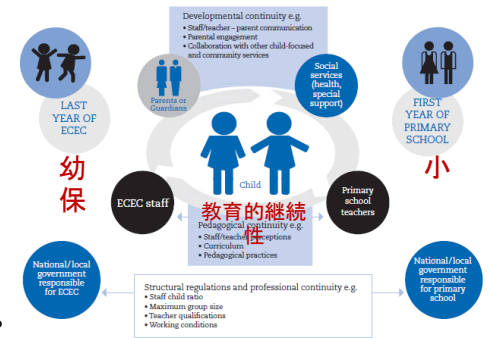
## ○幼保小接続の取組の各国のトレンド

- ・幼保小接続は各国でも大きな関心事。政府の戦略や政策文書に含まれることが増加。
- ・幼保小接続強化のためのカリキュラム改革や幼保小接続を容易にするための幼児教育・保育施設の一体化の取組等について紹介。

## ○日本の保育者の社会情緒的な実践、保護者とのコミュニケーションの充実

- ・日本の保育者は、**社会情緒的な要素を含む子供の発達に関する内容**や**学び・遊びの支援に関する内容**について、**継続的に専門性の向上を図っている割合が非常に高い**。
- ・日本では、**保護者とのコミュニケーションを日常的、定期的**に実施している割合が**ともに高く**、国際的に見ても、**幼児教育・保育施設が保護者とのコミュニケーションを重視**。

Figure 6.1 Multiple factors and connections are at play in transitions



| ＜過去1年の専門性向上のための日本の保育者の活動実施割合＞（％、順） |          |          |
|------------------------------------|----------|----------|
|                                    | 子供の発達    | 学び・遊び支援  |
| 日本                                 | 83.9 (2) | 77.2 (2) |

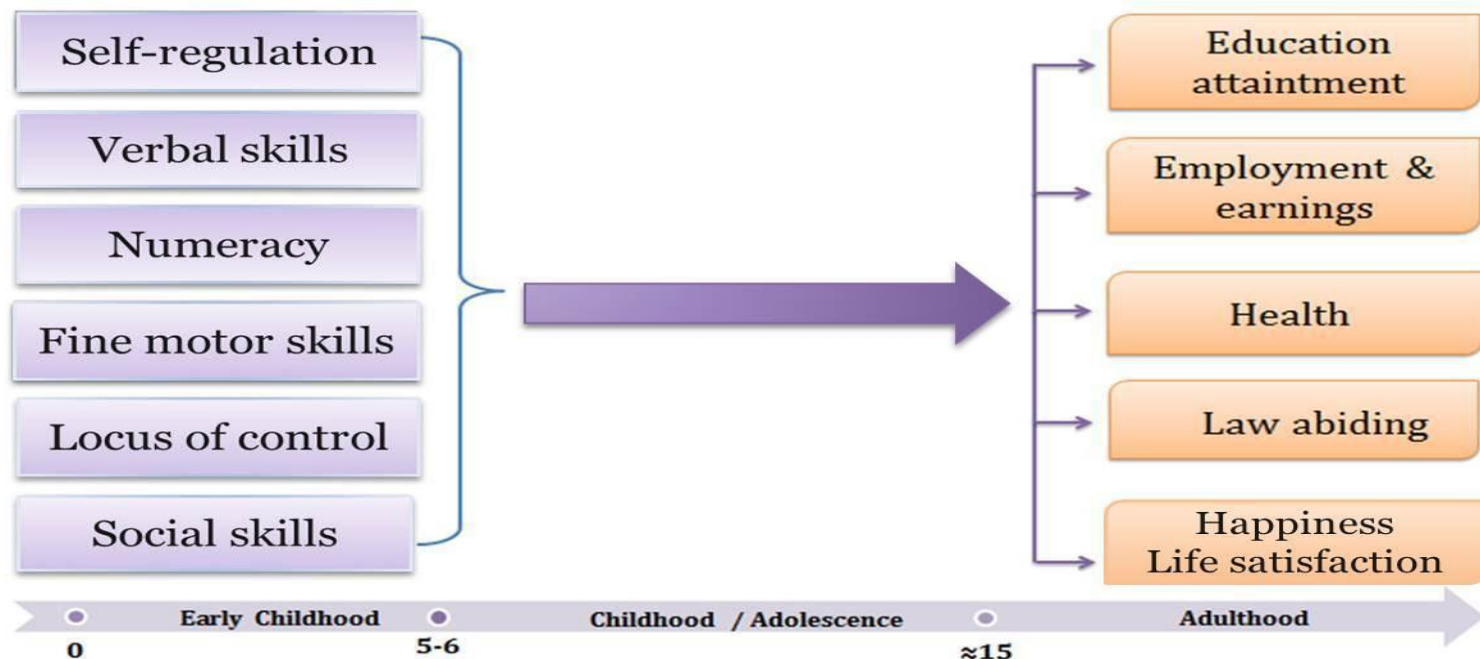
  

| ＜保護者とのコミュニケーションの実施割合＞（％、順） |          |          |
|----------------------------|----------|----------|
|                            | 非公式（毎日）  | 公式（月1以上） |
| 日本                         | 74.7 (3) | 96.5 (1) |

# 幼児期の教育・学習の成果が生涯にわたる発達影響を及ぼす

(Schoon,2015)

## 幼児期に培ったスキルと学びが生涯の成果の予測因子となる

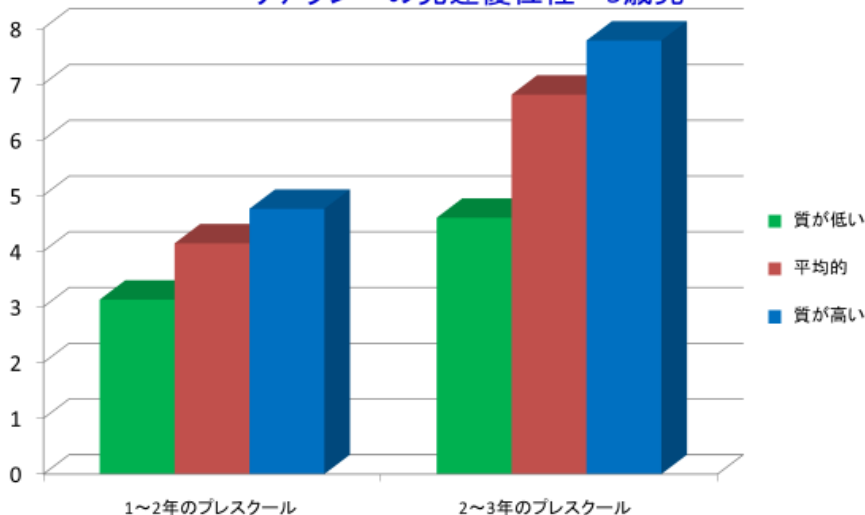


# ①幼児教育は生涯にわたる発達に影響を及ぼす

- 3-5歳において自己調整(制御)や自分が行動主体であるという主体性の感覚が、さまざまな領域を超えて生涯にわたるその後の成果につながる。それは認知的能力とは独立。
- 情動的な安定性は、大人になってからの心的健康や身体的健康に影響を及ぼす。またいわゆる言語力はあらゆる領域において大人になってからのさまざまな領域の成果を予測するのに対し、数的能力は学業達成や社会経済的な地位や身体的健康には影響を及ぼすがそれは限られた効果である。
- 集中して課題に取り組むなどの実行制御能力が学校での成績や行動には影響がある。
- 幼児期の社会的スキルは、幼児期には潜在的な影の部分であるが、大人になってから家族を形成できるか、親になるかどうかというようなことの予測因子であったり、アルコール中毒などのリスク要因を低減するかどうかにも影響する

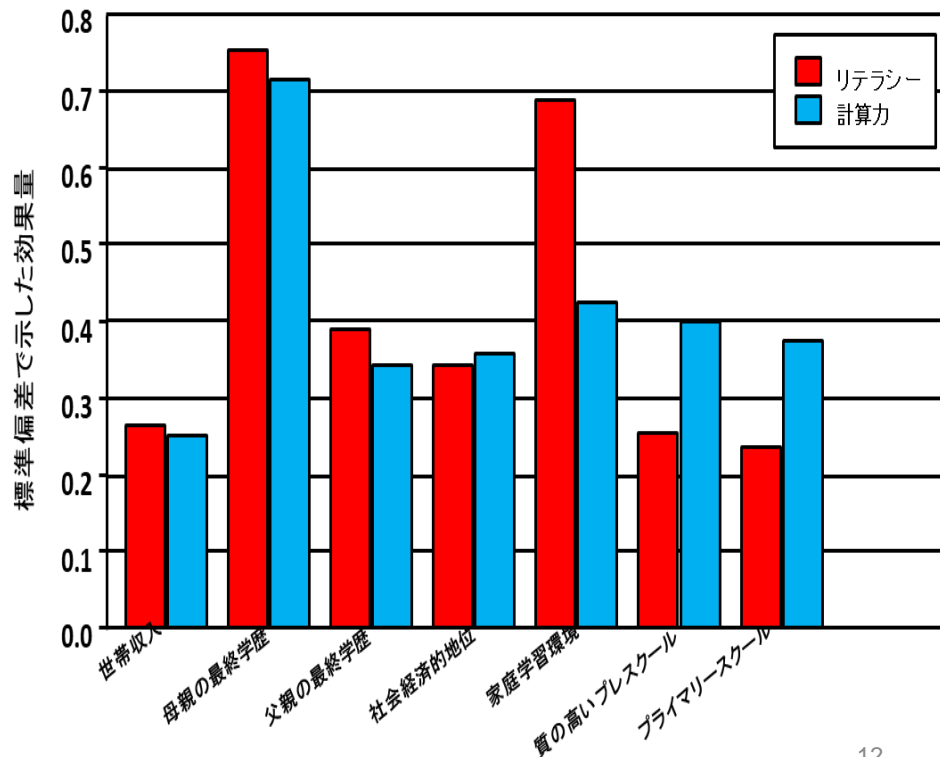
# ただし、登園すればよいのではなく、保育の質が大事。 時間が影響 言語・認知・非認知発達に影響する

英国 - 長期的調査 - 3000人以上の子ども  
教育の質と期間の重要性  
リテラシーの発達優位性 - 5歳児



27

## 11歳になっても残る効果



出典 Melwish, 2021

質が下がると発達に悪影響がある。

カナダ ケベック州の例 (Baker, et. als. 2018)

- 1997年幼児教育の利用料引き下げによる保育所の利用の増加
- この制度変更の対象になった児童らが 20代になった後の非認知能力, 健康, 生活満足度, 犯罪関与にマイナスの影響を与えた。

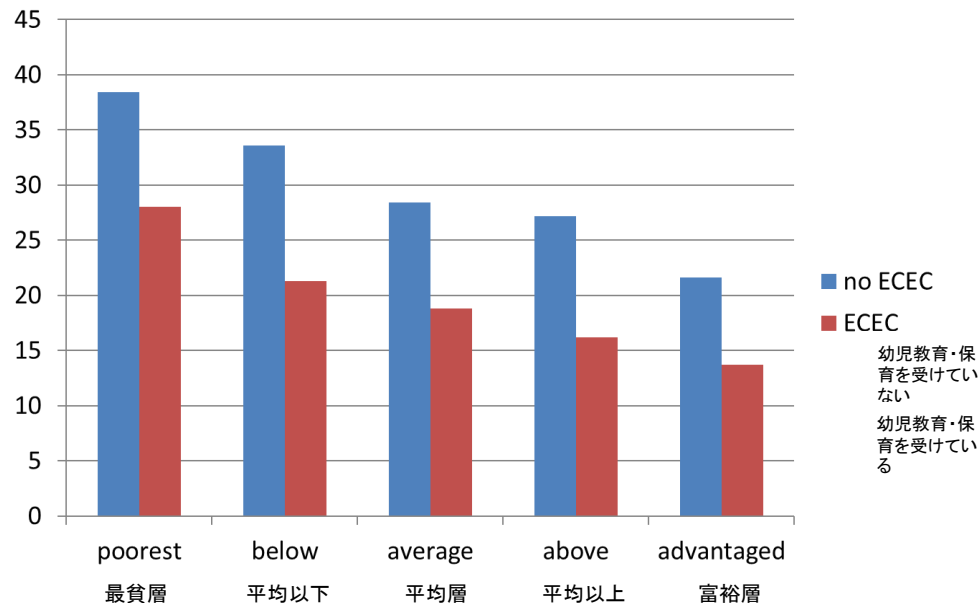
(男子での攻撃性、多動)

幼児教育は、マイナスの効果も長期にわたって持続する。

- その理由として、利用料の引き下げによる保育所の増加によって質が低下したことがその一因と論じられている。



## ②幼児期の園の教育効果 所得層別の発達遅延率 教育がリスクを下げる



Melwish,2021

# ③効果的な幼児教育・保育に大切な側面(英国) 自己調整能力とコミュニケーション能力が鍵となっている。

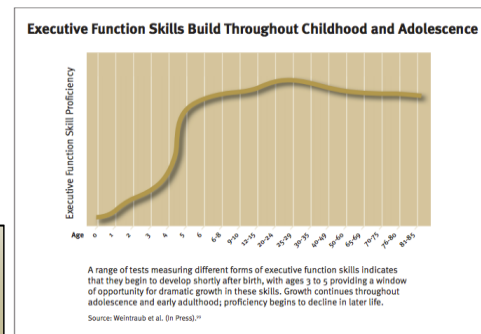
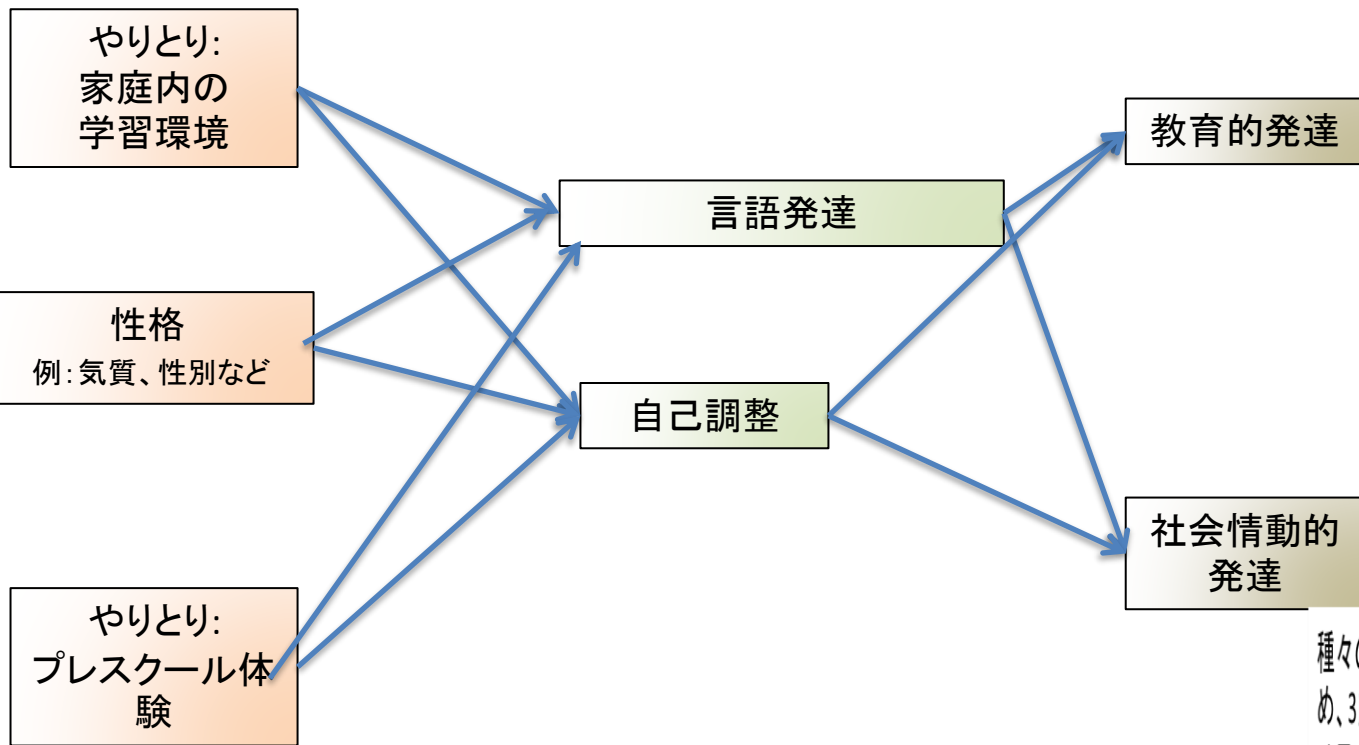
## 効果的な幼児教育の特徴

- 大人と子どもの間の会話の質が高い。
- 保育者がカリキュラムに対する知識と理解がある。
- 子どもが幼少期にどの程度学ぶかを心得ている。
- 子どもの問題解決をサポートする大人がいる。
- 家庭内で親が、学習をサポートできるよう助けている。

## 自己調整能力(5歳児)非認知能力

- 考えてから行動する
- 簡単には気が散らない
- 次の新しいタスクに取り掛かる
- 自分で用具を選び、戻すことができる
- もじもじしない
- 困難に直面したとき辛抱できる
- 何でも自分で解決しようとする
- 落ち着きがある
- 終わりまで課題に取り組みやり遂げる

# 成長への影響要因のモデル(SEED)2-5歳が鍵 (メルウィツシュ、2018)



種々の実行能力を測る調査の結果、実行能力は生後すぐに発達し始め、3歳から5歳の間には飛躍的に高まることがわかった。能力の成長は思春期を超え、成人早期まで続く。しかしその後低下を始める。



| 構造的 특성             | 関連性             |        |
|--------------------|-----------------|--------|
|                    | 保育者と子どもの<br>関わり | 子どもの発達 |
| 職場環境と労働条件          | 未検討             | 未検討    |
| 養成教育と資格            | 正の関係・<br>ニュートラル | 結果不明確  |
| 現職研修への参加と<br>専門性開発 | 正の関係            | 正の関係   |
| 勤務経験年数             | 結果不明確           | 欠損     |



④ 現職研修が一つの鍵 子どもの発達に影響するのは、保育者の研修

(OECD, 2018)

# オーストラリア効果的な幼児期の学びの促進 (FEEL) の研究

1. 幼児教育の実践者に対し、研究結果を元に作成された専門能力開発研修 (PD) を行う
2. 専門能力開発研修 (PD) を無作為化比較試験で以下2つの観点から評価する:

研修受講群38園と比較群45園

7か月間 (対面、オンライン両方での研修併用)

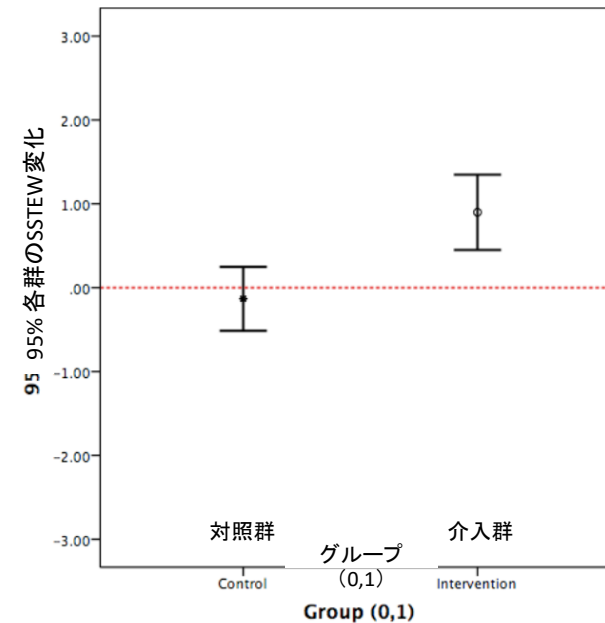
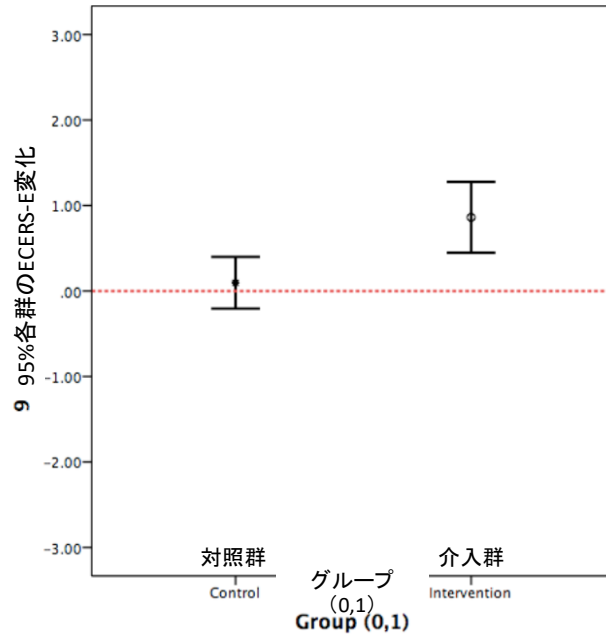
- 幼児教育・保育の質
- 子供の成長 (例: リテラシー、計算力)

Siraj, I., Melhuish, E., Howard, S., Neilsen-Hewitt, C., Kingston, D., de Rosnay, M., Duursma, E., Feng, X., & Luu, B. (2018). *Fostering Effective Early Learning (FEEL) Study*. Sydney: NSW Department for Education. <https://education.nsw.gov.au/content/dam/main-education/early-childhood-education/whats-happening-in-the-early-childhood-education-sector/media/documents/5854-Feel-Study-VFA4-Accessible.pdf>

# 効果的な幼児期の学びの促進 (FEEL) の研究

(Siraj et als.,2018,2019)

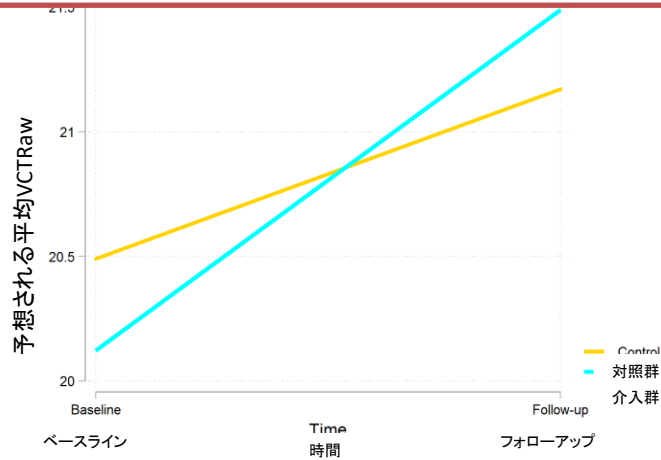
**結果: 現職保育者に集中的な研修をすると、保育の質得点が伸びる**



専門能力開発群における質が2尺度ともに著しく改善した

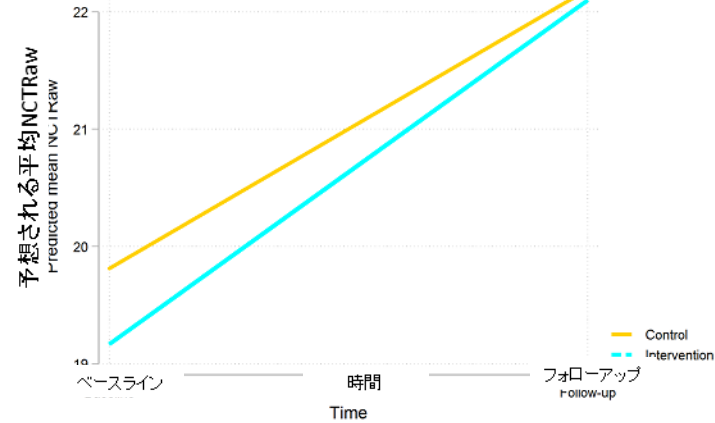
# 効果的な幼児期の学びの促進 (FEEL) の研究 (2020)

結果: 子供の読み書きも、数能力も伸びた。英国でも現在同様の研究大規模実施中



口語理解力

- 口語理解力は専門能力開発により大きな効果があった



数の概念

- 初期の数の概念は専門能力開発により大きな効果があった

質問紙調査を実施し、「育ち・学びを支える力」の5歳児から1年生への影響などについて分析

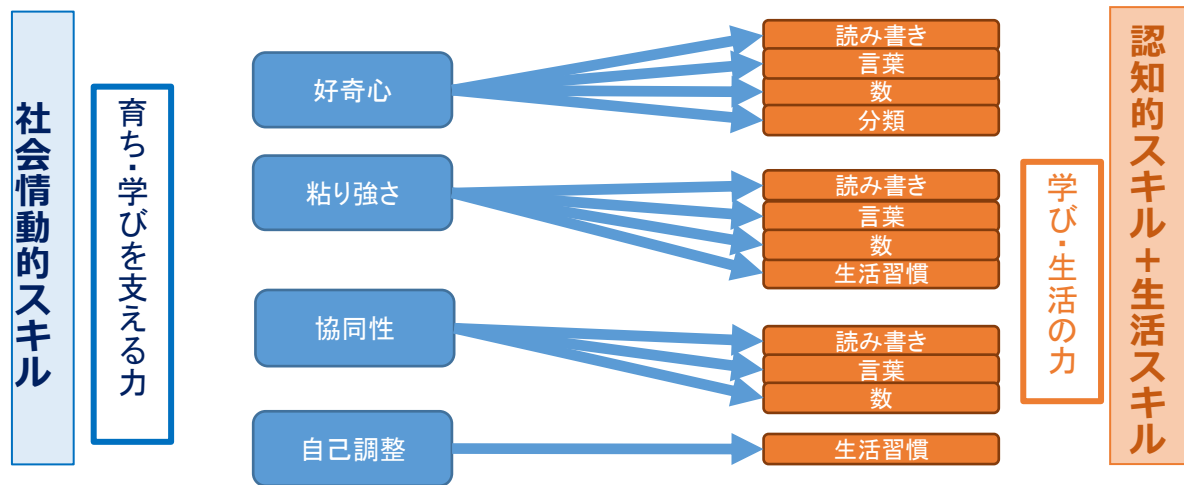
育ち・学びを支える力：本研究では、①好奇心、②自己肯定感・自己表現、③粘り強さ、④自己調整、⑤協同性の5因子とした  
 学び・生活の力：本研究では、①読み書き、②言葉、③数、④分類、⑤生活習慣とした

質問紙調査対象：5園の年長児について担任（10名）と保護者（264名）【27年度調査】

27年度調査の対象児の進学先の小学校1年生について担任（27名）と保護者（808名）【28年度調査】

- 幼稚園保護者，小学校保護者，小学校教師のモデルでは、「好奇心」が「学び・生活の力（生活習慣を除く，読み書き，言葉，数，分類）」に影響しており，興味関心や試行錯誤，工夫，振り返りなどが，学びの基礎となっていることが伺われた。
- 小学校の保護者調査では、「好奇心」の高さが、「読み書き」や「言葉」，「数」，「分類」の高さに影響していました。また，育ち・学びを支える力の「粘り強さ」の高さは、「読み書き」や「言葉」，「数」，「生活習慣」の高さに，「協同性」の高さは「読み書き」や「言葉」，「数」の高さに影響していました。

● 小学校の保護者アンケート



# 日本の縦断調査研究 学びに向かう力の最初期研究2013年より

【図1】幼児期に必要な学習準備に関する3つの軸

| 3つの軸    | 内容    | 項目の代表例                                    |
|---------|-------|---|
| 文字・数・思考 | 文字    | ・かな文字を読める など4項目**                         |
|         | 数     | ・「1個、1本…」などの数え方ができる など3項目**               |
|         | 言葉    | ・自分の言葉で順序をたてて、相手にわかるように話せる など4項目**        |
|         | 分類する力 | ・身の回りにあるものの長さや大きさ、高さを直接並べて比べられる など4項目**   |
| 学びに向かう力 | 好奇心   | ・わからないことについて、「なぜ、どうして」など、まわりに質問ができる など5項目 |
|         | 自己主張  | ・自分が何をしたいかを言える など5項目                      |
|         | 協調性   | ・遊びなどで友だちと協力することができる など5項目                |
|         | 自己抑制  | ・人の話が終わるまで静かに聞ける など6項目                    |
|         | がんばる力 | ・物事をあきらめずに、挑戦することができる など4項目               |
| 生活習慣    | 生活習慣  | ・夜、決まった時間に寝ることができる など7項目*                 |

\* 発達に合わせて、小1では6項目。

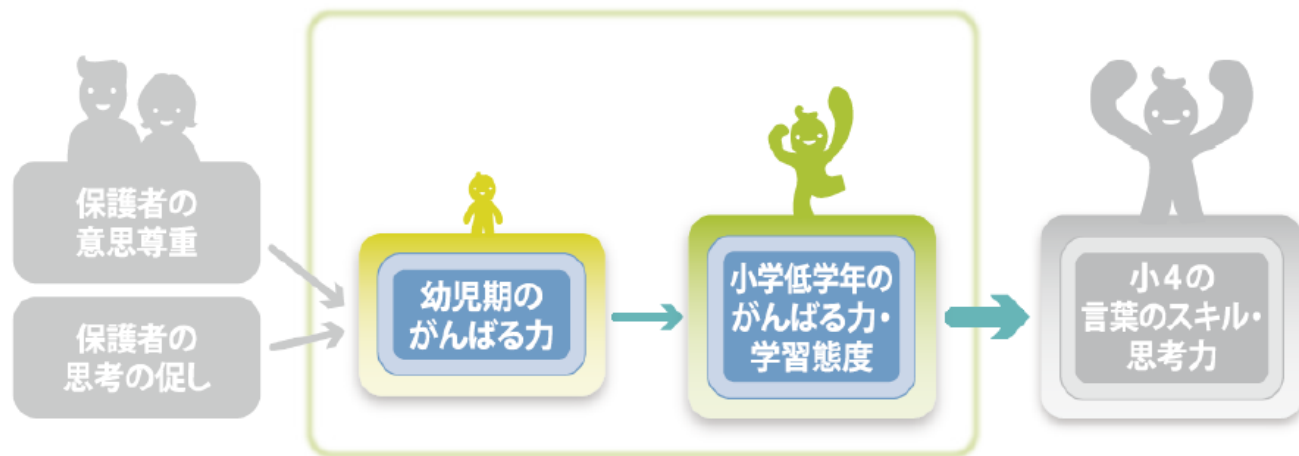
\*\* 発達に合わせて、年齢、小1で項目内容と項目数が異なる。

ベネッセ(2020)  
無藤、秋田、荒牧他 8年間の  
保護者回答の縦断調査



# 挑戦 集中 がんばる力が小学校中高年にも影響

1. 幼児期に「物事をあきらめずに挑戦する」といった『がんばる力』が高い子どもほど、小学校低学年（1～3年）で「大人に言われなくても自分から進んで勉強する」などの学習態度や『がんばる力』も引き続き高い傾向にある。

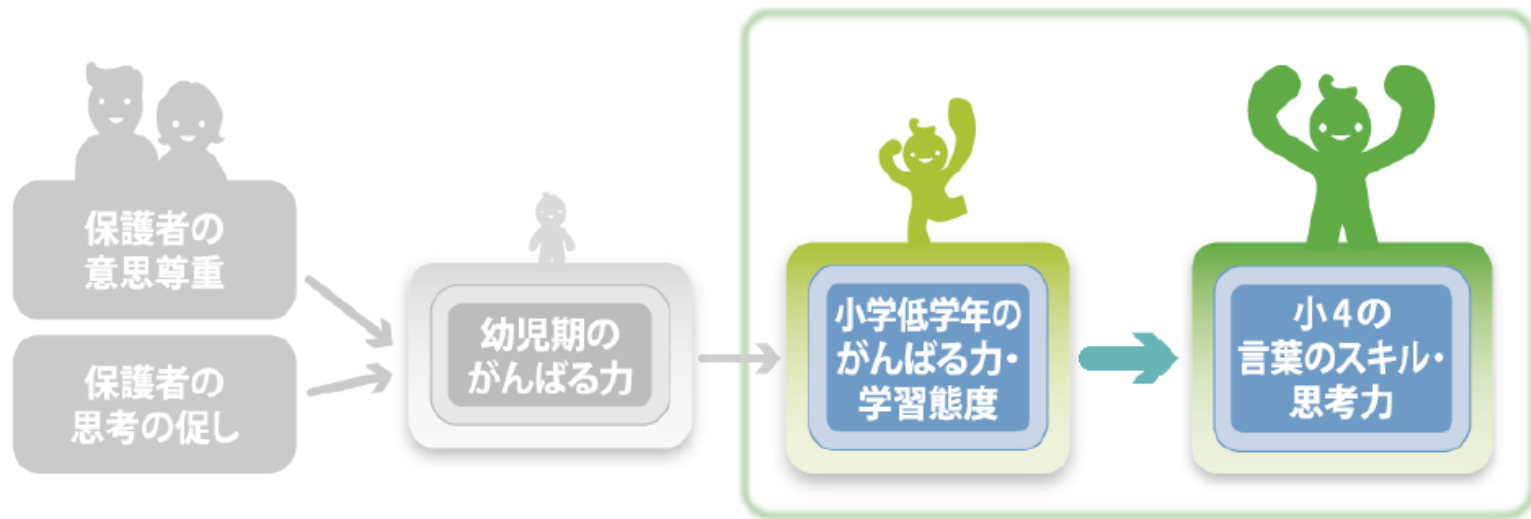


## 【小学校低学年の主体的な学習態度】

「大人に言われなくても自分から進んで勉強する」、「勉強が終わるまで集中して取り組む」、「机に向かったら、すぐ勉強に取り掛かる」、「勉強をしながら、わからないとき、自分で考え、解決しようとする」の4項目。

# 低学年からの学習態度が中高学年へ影響

2. 小学校低学年で学習態度や『がんばる力』が身についていると小学4年生での言葉のスキルや思考力が高くなる。

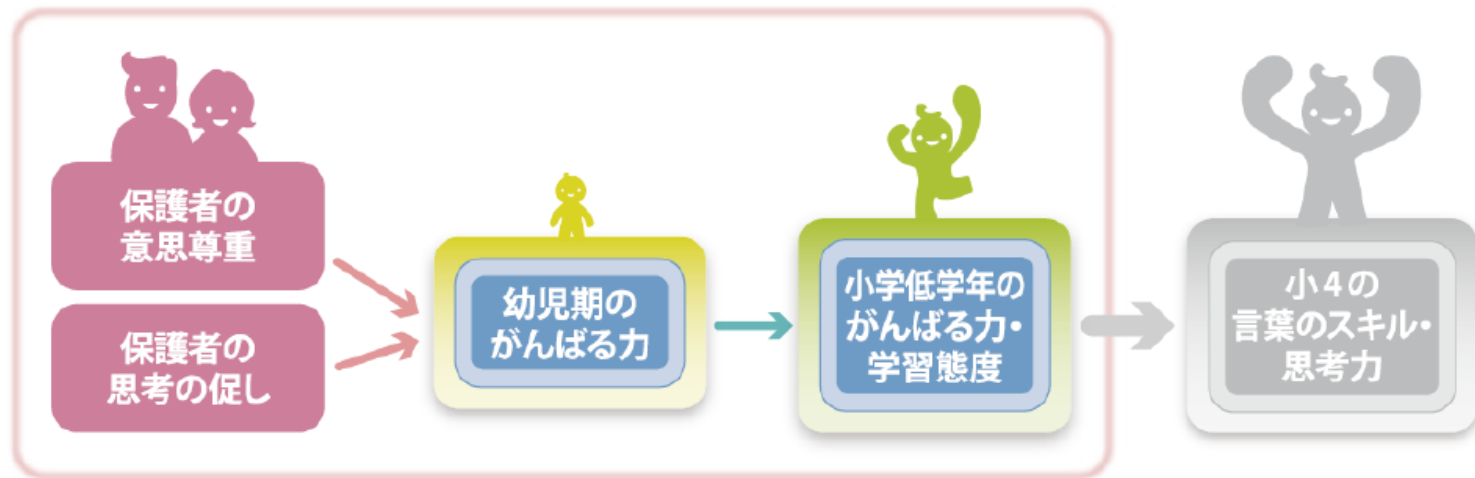


4



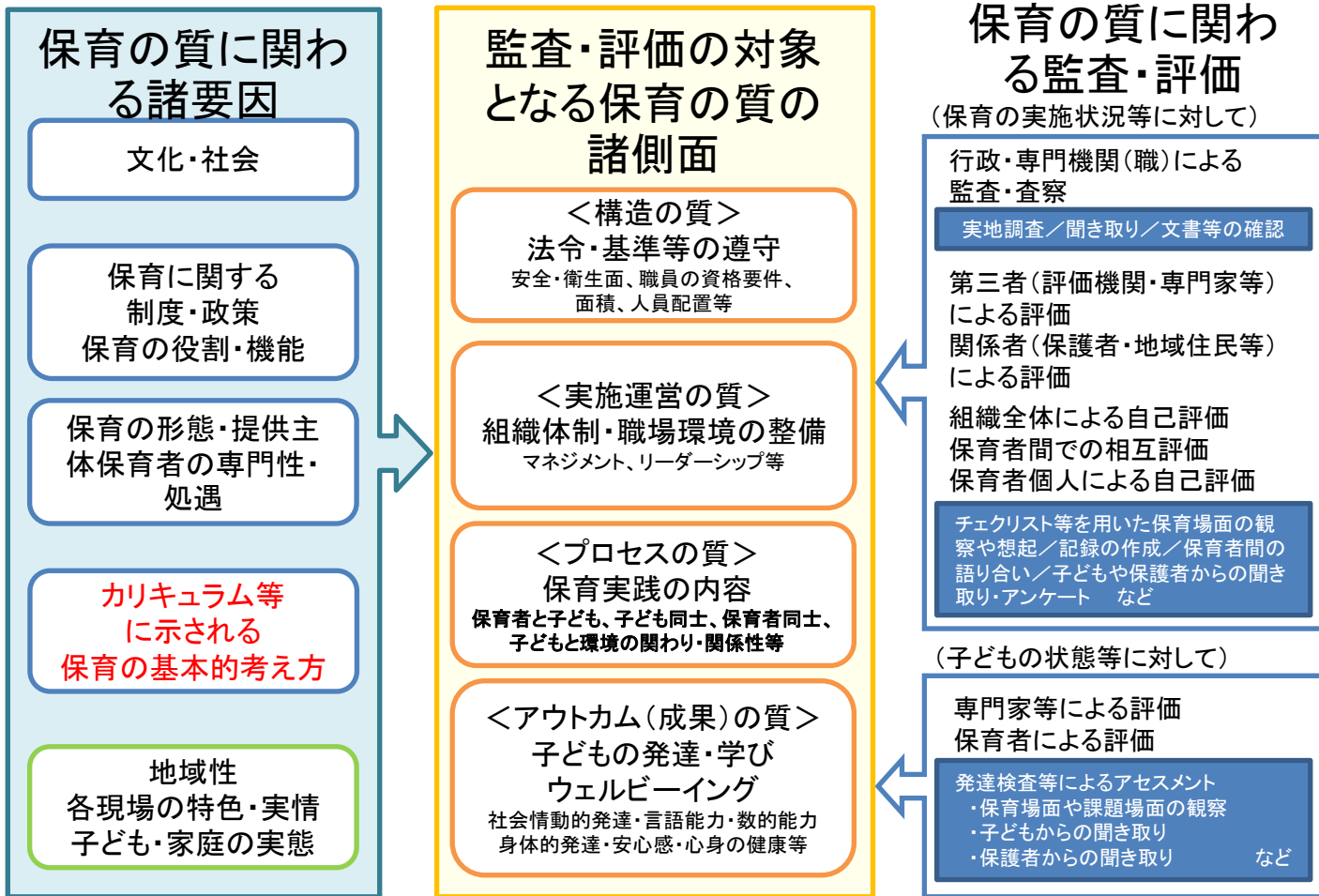
# 家庭での保護者の関わりが影響する

3. 親の関わりでは、子どもの意欲を大切にする態度や思考の促し（子どもが自分で考えられるように働きかけること）が幼児期から児童期にかけての『がんばる力』に影響を与えている。



### ③ 現在やこれからの幼児教育・保育政策と質

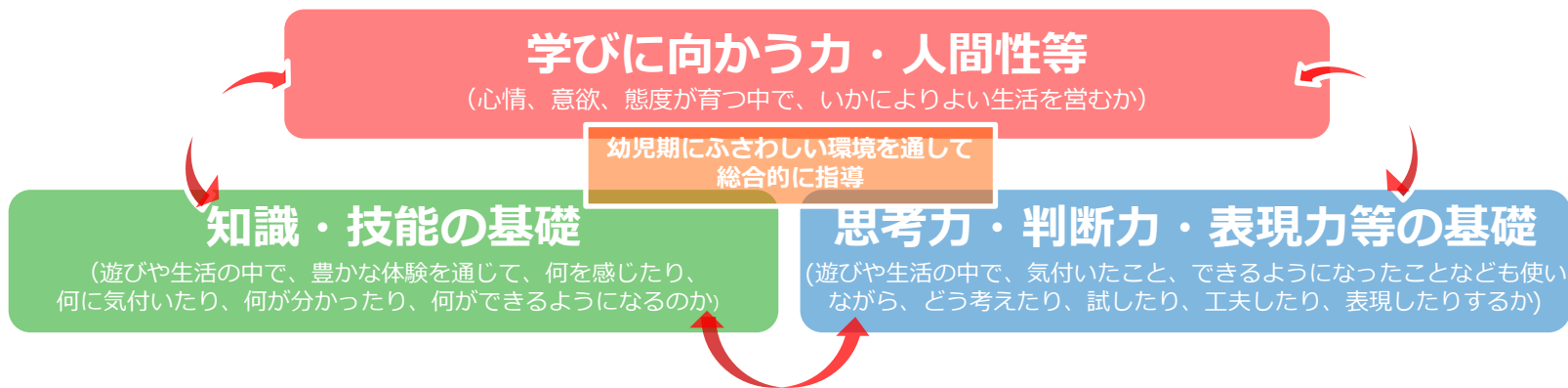




# 幼児教育・保育の質を、施設類型を問わずに保障するために

教育課程や保育計画を通じ、生涯にわたる生きる力の基礎が一人一人の幼児に育まれるよう、幼児教育や保育の内容に関し、次のような点について施設類型を問わず共通に告示※している。

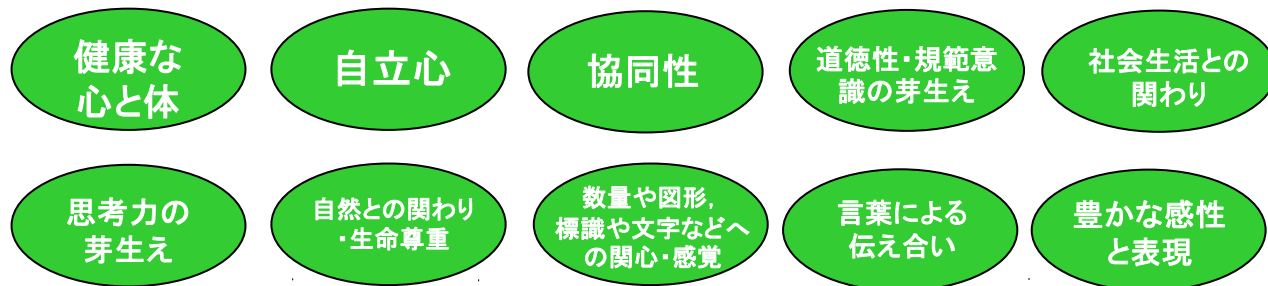
○次に掲げる資質・能力の基礎を一体的に育むことを明示。



※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、合同の検討会議等を通じて整合性を図り告示しているところ。

# 幼児教育・保育の質を、施設類型を問わずに保障するために カリキュラム 2019年改訂実施

- 小学校以上の教職員との連携や、地域、家庭等との連携の手がかりとするため、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿を明確化。



- なお、小学校学習指導要領においても、幼児期の学びから小学校教育に円滑に移行できるよう、各教科等の指導において、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮することが求められている。

文部科学省(2020年5月)「幼児教育の質の向上について(中間報告)」  
厚生労働省(2020年6月)「保育所等における保育の質確保向上等に関する検討委員会  
議論のまとめ」

# ゼロからのスタートじゃない!

子供は幼児期にたっぷりと学んできています

## 幼児期 学びの芽生え

- 楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- 遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
- 日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。



幼児教育

- 5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を総合的に学んでいく教育課程等
- 子供の生活リズムに合わせた1日の流れ
- 身の回りの「人・もの・こと」が教材
- 総合的に学んでいくために工夫された環境の構成 など



## 児童期 自覚的な学び

- 学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- 各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- 主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。



小学校教育

自立

成長

安心

スタートカリキュラム

- 各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- 時間割に沿った1日の流れ
- 教科書が主たる教材
- 系統的に学ぶために工夫された学習環境 など

安心

成長

自立





## 背景

- 複数の施設類型が存在し、私立が多い幼児教育の現場において、**公私・施設類型問わず保育者の専門性の向上等の取組を一体的に推進するためには、幼稚園教育要領等の着実な実施、小学校教育への円滑な接続、特別な配慮を必要とする幼児への対応など教育内容面での質向上を担う地方公共団体の体制の充実が必要。**
- 特に、**新型コロナウイルス感染症で顕在化した課題に対して、保健、福祉等の専門職から適時適切なアドバイスを求める声があるものの、各園単独での個別の専門職との連携は負担が大きく非効率。**

## 事業内容

**保健、福祉等の専門職との連携をはじめ、多様な課題に対応する幼児教育推進体制の構築、活用強化を支援**

- 体制の充実**
  - ・幼児教育アドバイザーの配置、質向上のための取組、新規アドバイザーの育成
  - ・新型コロナウイルス感染症で顕在化した課題への対応のため、保健、福祉等の専門職との効果的な連携 <新規>
- 人材育成方針**
  - ・幼児教育の実践の質向上のためのガイドラインの作成・活用
- 体制の活用**
  - ・研修・巡回訪問の充実（**保健、福祉等の専門職を含む<新規>**）、幼小接続の推進、公開保育等の実施支援
- 域内全体への波及**
  - ・都道府県・市町村の連携を含めた関係者間の情報共有等、域内全体における幼児教育の質向上を図るための仕組み作り

〇〇県(市)幼児教育センター

幼児教育アドバイザーの配置・育成      保健、福祉等の専門職との連携

[以下要件]

- ・幼児教育センターの設置
- ・担当部局一元化
- ・小学校指導担当課との連携体制確保

|            |                   |
|------------|-------------------|
| 補助対象       | 都道府県、市町村          |
| 単価・個所数・補助率 | 850万円程度(1/2)×50団体 |

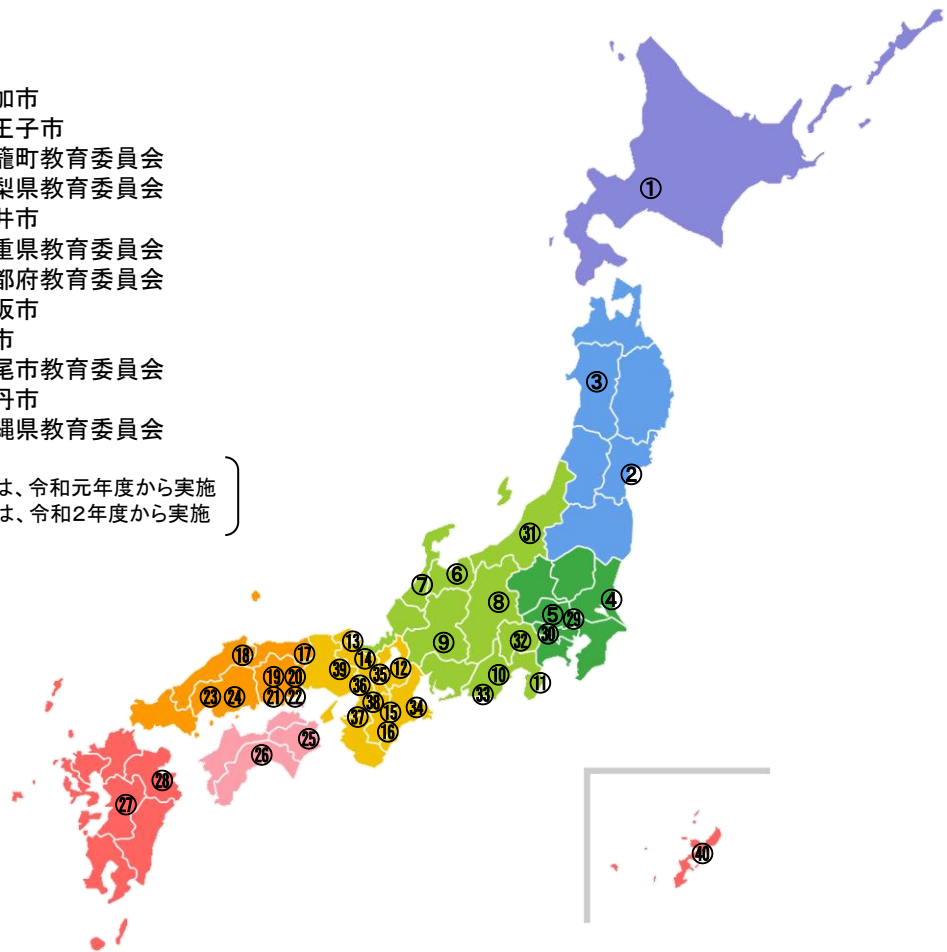
補助対象経費

- ・幼児教育アドバイザー配置に必要な経費（人件費等）
- ・専門職との連携に必要な経費（謝金等）<新規>
- ・研修・巡回訪問等に必要な経費（謝金、旅費等）

## ○令和2年度採択団体

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 北海道教育委員会  | 29. 草加市      |
| 2. 気仙沼市教育委員会 | 30. 八王子市     |
| 3. 秋田県       | 31. 聖籠町教育委員会 |
| 4. 鹿嶋市       | 32. 山梨県教育委員会 |
| 5. さいたま市     | 33. 袋井市      |
| 6. 富山県教育委員会  | 34. 三重県教育委員会 |
| 7. 金沢市       | 35. 京都府教育委員会 |
| 8. 長野県教育委員会  | 36. 大阪市      |
| 9. 岐阜市教育委員会  | 37. 堺市       |
| 10. 静岡県教育委員会 | 38. 八尾市教育委員会 |
| 11. 函南町      | 39. 伊丹市      |
| 12. 東近江市     | 40. 沖縄県教育委員会 |
| 13. 舞鶴市      |              |
| 14. 京丹波町     |              |
| 15. 奈良県教育委員会 |              |
| 16. 奈良市      |              |
| 17. 鳥取県教育委員会 |              |
| 18. 島根県教育委員会 |              |
| 19. 岡山県      |              |
| 20. 玉野市教育委員会 |              |
| 21. 高梁市      |              |
| 22. 美作市      |              |
| 23. 広島県教育委員会 |              |
| 24. 広島市教育委員会 |              |
| 25. 徳島県      |              |
| 26. 高知県教育委員会 |              |
| 27. 熊本県教育委員会 |              |
| 28. 大分県      |              |

1～28は、令和元年度から実施  
29～40は、令和2年度から実施





# まとめにかえて

- すべての子どもたちや保護者のために、保育の質の確保はもとより、さらなる質の向上への支援が重要である。
- 乳幼児期の教育には、カリキュラムが準備されていること、それを専門的に理解して保育実践ができる保育者が保育に当たり、集団としての経験ができること、環境を通しての教育では、教材や素材がカリキュラムと対応してバランスよく子どもの発達に応じて提供されており、それを子どもたちが主体的に選択して遊び生活できる場が求められている。それが小学校との接続、そして未来に求められる資質向上(コンピテンシー)につながる。
- そのための現職保育者の研修や持続的に勤務できる労働環境の維持向上や園の支援体制が各地域の実態をふまえて求められる。

